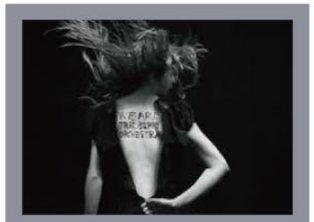
J-WAVE & ROPPONGI HILLS PRESENT

TOKYO M.A.P.S SPECIAL

5.6 TUE	18:00~19:55	J-WAVE 81·3FM

ナビゲーター：サッシャ

TOKYO M.A.P.S 2日目の夜6時から、J-WAVEでスペシャルプログラムをオンエア！2日間の録って出しライブ音源のほか、プログラム・オーガナイザーの小林武史さんのメッセージや出演アーティストのコメントなど盛りだくさんでお届けします。小林武史、大沢伸一、ダイアナ、田中義人、屋敷豪太によるバンドBRADBERRY ORCHESTRAのTOKYO M.A.P.Sテーマソング「ハルネオン」もオンエア。会場の熱気をラジオでも感じてください。



TOKYO M.A.P.S テーマソング
「ハルネオン」
BRADBERRY ORCHESTRA

J-WAVE 81·3FM & roppongi hills

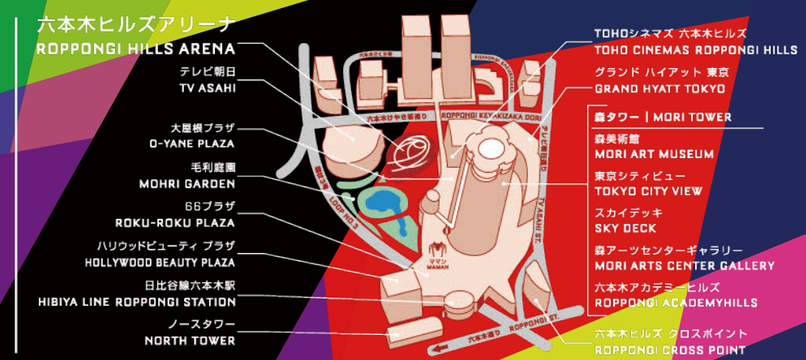
開催期間：2014年5月5日(月・祝)～5月6日(火・休)
主　　催：森ビル株式会社　J-WAVE 81.3FM
会　　場：六本木ヒルズアリーナ
協　　賛：キュレーションマガジン Antenna(アンテナ)
入 場 料：無料

※ 荒天時はプログラム変更および中止になる場合がございます。

〈access/information〉
■ 地下鉄
○ 東京メトロ日比谷線「六本木駅」よりアリーナまで徒歩約5分
○ 都営大江戸線「六本木駅」よりアリーナまで徒歩約10分
○ 都営大江戸線「麻布十番駅」よりアリーナまで徒歩約5分
■ 車
○ 首都高速飯倉ランプ、霞ヶ関ランプから10分　駐車場／2,762台完備

■お問い合わせ：六本木ヒルズ総合インフォメーション
TEL:03-6406-6000

www.tokyomaps.jp



J-WAVE & Roppongi Hills present

TOKYO M.A.P.S

TAKESHI KOBAYASHI EDITION

2014.5.5(MON)-6(TUE)
@ Roppongi Hills Arena

TOKYO M.A.P.S とは…

六本木ヒルズとJ-WAVEがコラボレーションして毎年ゴールデンウィークに開催するフリーライブイベントです。開催毎に、豊かな世界観を持ったアーティストを迎え、音楽、アート、パフォーマンスなど様々な表現を発信していきます。

CONCEPT

それはまさに「東京が発信する地図」です。その地図には道も場所も記されていません。
しかも一枚ではありません。紙ですらありません。
その地図はMusic. Art. Performance.の地図です。そのM.A.Pが複数(S)集まり、
Showcaseの中でSpecialなSessionするSeries。
それがTOKYO M.A.P.Sです。「手に入れろ！『感動』の地図を！」

J-WAVE & Roppongi Hills present
TOKYO M.A.P.S

TAKESHI KOBAYASHI EDITION

CROSS THE BORDER
～"ALL IS ONE, ONE IS ALL"～

東京の都心でGWにやるイベントが、ある意味日常の延長的なイメージだったので、あくまで僕にとって馴染みのある人から殆ど接点がなかった人まで、あり得ない組み合わせができたら面白いと思い、オファーさせてもらったところ、どうやらその想いが叶いそうで、すごく嬉しいです。世代やジャンル、キャリアを越えたものにしたかったので、こういうタイトルにしたのですが、結局ミュージシャンズミュージシャン（あくまで良い意味ですが）が揃ってくださって、そしてこれからの才能も頑張ってくれると思います。音楽シーンは縮小傾向だとしても、想像力で垣根を越えていくことでマーケットの理屈とかは関係ないところでも、音楽の可能性と役割は確実にあると思っています。とても楽しみな2日間になりそうなので、ぜひ多くの人にそれを体験してもらいたいです。

プログラム・オーガナイザー
小林武史

小林武史

音楽プロデューサー、キーボーディスト。Mr.Childrenをはじめ、日本を代表する数多くのアーティストのレコーディング、プロデュースを手がける。映画『スワロウテイル』(1996年)、『リリイ・シュシュのすべて』(2001年)、『地下鉄(メトロ)に乗って』(2006年)など、手がけた映画音楽も多数。2010年の映画『BANDAGE(バンデイジ)』では、音楽のみならず、監督も務めた。2003年、Mr.Chilrenの櫻井和寿、音楽家・坂本龍一と自己資金を拠出の上、一般社団法人「ap bank」を立ち上げ、自然エネルギー推進のほか、「ap bank fes」の開催、東日本大震災の復興支援など、さまざまな活動を行っている。

MC:藤田琢己

TIME TABLE

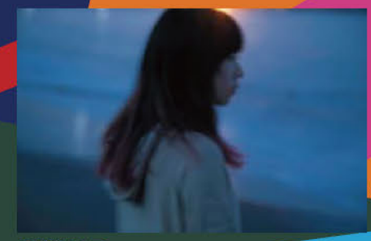
	5.5 MON	5.6 TUE
13:00	赤い公園	パスピエ
14:00	青葉市子	桐嶋ノドカ
15:00	藤巻亮太	黒木渚
16:00	Salyu	曽我部恵一
17:00		
18:00	スガ シカオ	ストレイテナー
19:00	田島貴男	細野晴臣
20:00		

※両日ともオールスタンディングとなります。※出演者および出演時間は変更になる場合がございます。※荒天時はプログラム変更および中止になる場合がございます。

5・5 (MON)

赤い公園

佐藤千明(Vo)、津野米咲(Gt)藤本ひかり(Ba)、歌川菜穂(Dr)の4人組。高校の軽音楽部の先輩後輩として出会い、10年1月結成。12年ミニ・アルバム「透明なのか黒なのか」をEMIミュージック・ジャパンより発売。同年ミニ・アルバム「ランドリーで漂白を」、シングル「のぞき穴」を発売。約半年の活動休止を経て、13年3月1日活動再開を発表。5月に復活祭と称した東名阪ツアーを実施。8月にファースト・フルアルバム「公園デビュー」を発表。圧倒的な演奏力と存在感から、今年最もブレイクが期待されるバンドとして高い評価を受けている。また、津野はソングライターとして、SMAP「Joy!!」の作詞・作曲、南波志帆「ばらばらバトル」の作詞・編曲等の楽曲提供を行うなど、活動の幅を広げている。

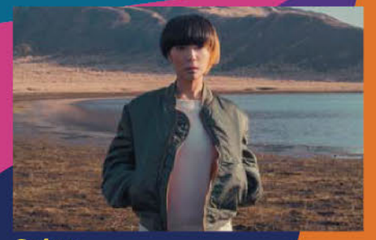


青葉市子

17歳からクラシックギターを弾き始め、10年、19歳の時に1st アルバム「剥刀乙女」でデビュー。これまでに3枚のオリジナル・アルバムを発表。13年8月には、同年元日にFMラジオでOAされた「坂本龍一 ニューイヤー・スペシャル」のスタジオ・セッション（細野晴臣、坂本龍一、小山田圭吾、U-zhaanが参加）をCD化した、「ラテラノ/青葉市子と妖精たち」をリリース。10月には1年半振りとなる4thアルバム「0」をリリース。現在は47都道府県を廻る全国弾き語りツアー中。

藤巻亮太

00年12月にレミオロメンを結成。03年8月1stシングル「電話」でメジャーデビュー。05年発表の8thシングル「粉雪」は自己最高のヒットとなる。09年、彼らにとって大事な日でもある3月9日に初のBEST ALBUM「レミオベスト」をリリース。12年2月、活動休止を発表。大震災以降、音楽と向き合い、被災地の学校を中心にライブを行い歌い続けてきた楽曲でもある「光をあつめて」でソロでデビュー。全国のフェス／イベントへ多数出演し、ソロ藤巻亮太の歌の世界観が凝縮された待望の1st アルバム「オオカミ青年」を10月17日に発表。13年1月～2月に「TOUR 2013 "オオカミ青年"」ツアーを敢行。9月～11月には自身初となる弾き語りツアー「明日の歌旅 2013」を行う。14年春、「明日の歌旅 2014」が決定。



Salyu

00年、Lily Chou-Chouとして2枚のシングルと1枚のアルバムを発表。彼女の歌が全編にフィーチャーされた映画「リリイ・シュシュのすべて」が公開。04年、小林武史プロデュースのもとSalyuとしてデビュー。以降17枚のシングル、4枚のアルバム、1枚のベストアルバムを発表。11年には、「salyu × salyu」としてCornelius＝小山田圭吾との共同プロデュース作品「s(o)un(d)beams」を発表。14年はデビュー10周年となり、共に映画主題歌として話題の最新曲「アイニユケル / ライン」を発表。中野サンプラザでのワンマンライブ開催と大きな話題となる。5月からは「a brand new concert issue " minima"- ミニマ - Salyu × 小林武史 vol.2」を開催。

スガ シカオ

97年デビュー、98年SMAPの「夜空ノムコウ」の作詞を手がけ大きな注目を浴びる。自身も男性ソロアーティストとして1stアルバムからの連続アルバムTOP10入りの歴代1位の記録をもつ。11年、所属事務所からの独立を発表し、同時に活動の場をインディーズに移す。13年4月に約2年ぶりのCDシングル「アイタイ」をメジャーリリース、各チャートで軒並み上位を記録し、シーンにおけるその存在感をあらためて示す。その後も最新アルバム「ACOUSTIC SOUL」を自身のレーベルからリリースし、iTunesで1位を記録するなど、メジャー、インディーズの枠組みにとらわれず活動をおこなってきたが、今春、ビクタースピードスターレコーズと契約し、5月21日にニューシングル「アストライド/LIFE」をリリースすることを発表。ついにメジャーフィールドに完全復帰する。

田島貴男

85年に結成した前身バンドが87年にオリジナル・ラヴと改名。(現在の表記はオリジナル・ラブ) 88年、オリジナル・ラヴと並行し、ピチカート・ファイヴに加入(90年まで)、91年にオリジナル・ラヴとして「LOVE! LOVE! & LOVE!」でメジャーデビュー。代表作として、シングル「接吻」、「プライマル」、アルバム「風の歌を聴け」など。12年、田島貴男名義でのライブCD、DVD「ひとりソウルショウ」を、オリジナル・ラブとして初のライブアルバムとなる「Overblow Tour 2012 Live in Shibuya Club Quattro」を発表。13年ニューアルバム「エレクトリックセクシー」を発表。近年はバンドスタイルではなく田島がひとりでループマシーンを駆使して行う「ひとりソウル」スタイル、もしくは弾き語りでのライブで新機軸をみせる。

5・6 (TUE)

パスピエ

21世紀流超高性能個人電脳破壊行歌曲をキャッチフレーズに09年にキーボード、成田ハネダを中心に結成。卓越した音楽理論やポップセンスと、ボーカルの大胡田なつきよるMusic Clipやアートワークが話題に。13年3月に1stシングル「フィーバー」を、続く6月には1stフルアルバム「演出家出演」をリリース。10月より初のワンマン・ツアーを行い全公演ソールド・アウトし大盛況のうちに終了。14年3月26日に2ndシングルとなる商A面シングル「MATATABISTEP/あの青と青と青」をリリース。

桐嶋ノドカ

「大切なひとに どうか 温かなしあわせが訪れますように」と、祈るように歌う、彼女の歌声はまっすぐで嘘がない。3歳からピアノを始め、13歳で聖歌隊に入り、歌うことにのめり込む。高校入学と同時期にキャロル・キングやノラ・ジョーンズなどに影響を受け、弾き語りを始める。次第に自身の「思い」を歌うようになり、高校を卒業する頃にはシンガーソングライターの道へ進むことを決める。12年夏、デモ音源を音楽プロデューサー・小林武史へ送ったことがきっかけとなり、同氏が代表を務める音楽事務所「OORONG-SHA」のスタジオに通い始める。華奢で小柄な外見からは想像がつかないパワフルな歌声は、聴くものに強烈なインパクトを残す。今春、大学を卒業し、本格的にアーティスト活動をスタートする要注目の新人アーティスト。

黒木渚

宮崎県出身のミュージシャン。10年12月に自らの名前を掲げたバンド「黒木渚」を結成。12年12月にデビューシングル「あたしの心臓あげる」をリリース。翌年3月に1stミニアルバム「黒キ渚」、10月には2nd Single「はさみ」をリリース。「SUMMER SONIC 2013」「COUNTDOWN JAPAN 13/14」などの大型フェスにも出演し、新人らしからぬ堂々としたパフォーマンスで会場を大いに沸かせる。しかし、13年12月19日に年内でのバンド解散を発表。14年からソロとしての活動を開始。4月2日に1stフルアルバム「標本箱」をリリース。週間USEN HIT J-POPランキングで初登場3位にランクイン。6月1日には渋谷公会堂でワンマンライブツアーファイナル「革命がえし」を開催する。

曽我部恵一

94年にサニーデイ・サービスとしてメジャーデビュー。00年サニーデイ・サービス解散。01年よりソロ活動開始。04年には自身のレーベル＜ROSE RECORDS＞を設立、同時期に曽我部恵一BANDを結成。08年にはサニーデイ・サービスの活動を再開。13年末、ソロアルバム「超越的漫画」、次いでアナログシングル「汚染水」を発表。高い評価を得る。14年2月にアナログシングル「それはぼくぢゃないよ」、3月5日には23曲入りのソロNEWアルバム「まぶしい」が発売。

ストレイテナー

98年ホリエアツシ(Vo,Gt,P)とナカヤマシンペイ(Dr)の2人で始動。03年メジャーデビューとともに日向秀和(Ba)加入、08年には大山純(Gt)が加わり鉄壁の4人編成に。メジャーデビュー10周年を迎えた13年2月17日には、2度目となる日本武道館公演をSOLD OUTさせ、5月1日には初のベスト盤「21st CENTURY ROCK BAND」をリリース。その後6年ぶり2回目となる47都道府県ツアー(全52公演)を敢行。怒涛の10周年イヤーを駆け抜ける。14年も、1年8ヶ月ぶりとなるシングル「Super Magical Illusion」を6月25日にリリース。アグレッシブかつ挑戦的な活動ペースを緩めることなく、メジャーデビュー20周年に向け新たな一歩を踏み出す。

細野晴臣

47年東京生まれ。音楽家。69年エイプリル・フールでデビュー。70年はっぴいえんど結成。73年ソロ活動を開始。同時にティン・パン・アレーとしても活動。78年イエロー・マジック・オーケストラ(YMO)を結成。YMO散開後は、ワールド・ミュージック、アンビエント・ミュージックを探求、作曲やプロデュースなど多岐にわたり活動。13年ソロアルバム「Heavenly Music」を発表。